

## 1 学校教育目標

・自ら考え学ぶ人                      ・共に生きる人                      ・健やかに伸びゆく人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・9年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な資質・能力を身に付けた児童・生徒を育成する学校。
○児童・生徒像	・粘り強く、主体的・継続的に学ぶ子 ・心身ともに健康で、情操豊かな子 ・自己実現を図り、社会に貢献できる子
○教師像	・明るく誠実に職務に取り組む教師 ・一人一人の児童の良さを伸ばせる教師 ・児童・生徒が意欲的に学習できる、魅力的な授業を行える教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

- (1) 小中一貫教育校の特徴を生かし、9年間で3つの期に分けている。Ⅰ期の1年生から4年生は、東校舎で学校生活を送っている。4年生は最高学年としてリーダーシップを発揮している。Ⅱ期の5, 6年生は中学生と同じ西校舎に在籍し、生徒会活動や部活動に参加している。また、一部で教科担任制授業を行っている。中学校へのスムーズな移行ができており、中1ギャップはない。Ⅲ期の8, 9年生は地域のボランティア活動にすすんで参加し、地域の一員として活躍している。
- (2) 学習面では全体的に向上傾向にあるが、発展的な学習内容の定着に課題がある。家庭学習の定着も課題である。
- (3) 全教職員が兼務発令を受けており、合同で校内研究や交流授業を行っている。生活指導においても、児童・生徒の良さや課題を共有し、組織的に対応している。
- (4) 地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、「花いっぱい運動」に熱心に取り組んでいる。また、通学時の安全指導や朝のあいさつ運動は、地域とPTAが協力して企画・運営している。地域の学校に対する支援は絶大である。

### 2 前年度の成果

- (1) 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策により、授業の展開方法や学習形態に多くに制限があった。そのような環境の中でも工夫をし、児童・生徒が主体的かつ、対話的で深い学びが実現するよう、教師と児童・生徒が協力して行うことができた。
- (2) 足立区ICT推進校として、タブレットやデジタル教科書を活用した先進的な授業が実施できた。

### 3 前年度の課題

- (1) 大型投影機やタブレット端末を全教員が活用し、計画的かつ系統的な授業を展開する。
- (2) 自主的な家庭学習の充実課題である。SNS使用時間などを含め、家庭との連携強化が必要である。
- (3) 感染症防止対策のため、対話や発声などに制限がある。その中で、コミュニケーションを図りながら学習を進めていくことが課題である。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中一貫教育の確立	○	○	○	○	○
3	キャリア教育の推進	○	○	○	○	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童・生徒の基礎的・基本的な学力の定着をさせ、学力向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査（4月実施） 小学校:75% 中学校:70%</li> <li>年度末到達目標（2月実施） 小学校:75%、中学校:63%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月13日区調査実施 小学校 83.3%、中学校 72.0%</li> <li>② 2月区調査実施 小学校 74.2%、中学校 66.6%</li> </ul>		目標に対して、小学校は、①+8.3 ②-0.8 ポイント、中学校は、①+2.0 ②+3.6 ポイントであった。全般的に小学校の国語が課題である。授業改善及びパワーアップ・補充教室・読書活動を充実させたい。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
興南小学校									
継続	朝学習（Pタイム）	全児童 国語 （読書）	1～4年 火木金 朝 10分間	【指導者体制】担任＋副担任＋学習支援員【取組のねらい・目的】活用できる知識及び技能の習得【使用教材】音読、視写、漢字教材 ※読み物教材（読書）週1回	年1回区調査テスト （2月 次年度の国語）	国語・算数の問題について、通過率80%以上の結果を出す。	区調査の2実施通過率 2年 国語 81.8% 3年 国語 79.7% 4年 国語 77.6%	コロナ禍の中、9月に2週間緊急事態宣言延長もあったが、朝読書より学習が始まり、落ち着いた態度で集中して学習に取り組めた。	○
		全児童 国語 （読書） 算数	5.6年 国語算数の授業開始 5分間	【指導者体制】担任＋副担任【取組のねらい・目的】活用できる国語の知識及び技能、算数の数と計算の習得【使用教材】漢字、視写、計算教材 ※読み物教材（読書）週1回	年1回区調査テスト （2月 次年度の国語・算数）	国語・算数の問題について、通過率80%以上の結果を出す。	区調査の2月実施通過率 5年 国語 80.6% 算数 61.0% 6年 国語 72.9% 算数 77.0%	学習の始まりとして、読書・視写・計算を無言で集中して取り組み、落ち着いた態度で学習のスタートが切れた。	○

継続	○(オー)タイム	1, 2年 全児童 国語 算数	土曜日 3校時 年6回	【指導体制】担任+保護者ボランティア【取組のねらい・目的】活用できる国語の知識及び技能、算数の数と計算の習得【使用教材】1年 MIM 算数の教材 2年 算数の教材	毎月MIMテスト(1年のみ) 年1回区調査テスト(2月 次年度の算数)	2 <sup>nd</sup> ステージの割合を1月までに半分以下にする。 算数問題について通過率を80%以上の結果を出す。	1年MIM 61人中 1st 81% 2nd 11% 3rd 8%	感染症予防のため保護者のボランティアは無かったが MIMをはじめ継続して取り組めたことで読解力が高まり効果が上がった。	○
継続	丸付け交流学习	1~4年 全児童 算数	水曜日 5校時 年6回	【指導体制】担任+中学生ボランティア【取組のねらい・目的】基礎学力の定着を図るため、下学年までさかのぼり、つまずきを発見し解消する。【使用教材】1, 2年 算数の教材 3, 4年 東京ベーシックドリル	1, 2年 2月区調査 3, 4年 年3回 東京ベーシックドリル (5月(Aテスト)、 9月(Bテスト)、 12月(Cテスト))	算数計算問題について全員が正答率を80%以上の結果を出す。 満点の割合を4割にする。50%以下を0名にする。	東京ベーシックドリルの算数の診断テストでは平均正答率が 3年 93% 4年 85% 5年 79% 6年 78%	感染症対策を講じたため、7年生による2回の丸付け交流になった。 小中一貫教育校の特色を活かし、中学生に見てもらうことで緊張しながら集中して問題を解き理解を深めた。	○
継続	放課後補充教室	1~4年 個別指導を要する児童	週4日 放課後 20分間	【指導体制】全教員【取組のねらい・目的】①下学年の内容のつまずきを解消し、学力を向上させる。 ②理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。 ③2月・3月には苦手とする問題を重点的に補充学習する【使用教材】区調査 ワークテスト プリント	年1回区調査テスト(2月 次年度問題 国語 算数)	区学力調査(4月実施)通過率:75% 年度末到達目標(2月実施)通過率75%、	区調査の通過率 4月 2月 2年 国語 88.4、81.8 算数 92.8、75.8 3年 国語 85.0、79.7 算数 83.6、84.7 4年 国語 80.9、77.6 算数 89.7、71.9	つまずきのある児童に対して継続しての個別指導を実施し効果を上げた。 前回実施の区調査の通過率は学年によってばらつきがある。落ち込んだ学年の教科については、個別指導やつまずきの補充を実施する。	◎

	放課後補充教室	5, 6年 全児童 国語算数	週4日 放課後 20分間	<p>【指導体制】全職員 月1回中学生に教えてもらう。 学年補充での教えあいをする。</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>①下学年の内容のつまづきを解消し、学力を向上させる。</p> <p>②理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。</p> <p>③2月・3月には苦手とする問題を重点的に補充学習する</p> <p>【使用教材】ワークテスト プリント 区調査</p>	年1回区調査テスト (2月 次年度問題 国語 算数)	区学力調査(4月実施)通過率:75%  年度末到達目標 (2月実施)通過率75%、	区調査の通過率 4月 2月 5年 国語 67.5, 80.6 算数 75.1, 61.0 6年 国語 70.1, 72.9 算数 68.4, 77.0	学習進度や定着度に合わせて課題に年間を通して継続して取り組ませることができた。	◎
継続	授業工夫・改善	全児童 国語 算数	年間	<p>【指導体制】全教員</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>①自己の課題を明確にし、主体的対話的に取り組ませる。</p> <p>②プログラミング的思考で組み立てた問題解決型の授業を年一回以上行う。</p> <p>【使用教材】教科書他 管理職は、年間3回の授業観察時に改善に向けた指導助言を行う。教科指導専門員による教員への指導を定期的に行う。</p>	年1回区調査テスト (2月次年度問題 国語 算数)	通過する割合が前年度より5%減未満とする。	区調査の2月通過率 2年 国語 81.8% 算数 75.8% 3年 国語 79.7% 算数 84.7% 4年 国語 77.6% 算数 71.9% 5年 国語 80.6% 算数 61.0% 6年 国語 72.9% 算数 77.0%	学習の習熟度による3展開の算数指導により学習に対する理解度や意欲も高まった。特に算数においては通過率が落ち込んだ学年があるため、つまづきの補充や個別指導の充実を図る。	◎
継続	長期休業中 補充教室	1~6年 個別指導を要する児童 国語 算数	夏休み10 回程度 春休み2 回	<p>【指導体制】全職員</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>①下学年の内容のつまづきを解消し、学力を向上させる。</p> <p>②理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。該当学年の基礎学力定着を図る。</p> <p>【使用教材】プリント他</p>	年1回区調査テスト (2月次年度 国語 算数)	区学力調査(4月実施)通過率:75%  年度末到達目標 (2月実施)通過率75%、	新型コロナ感染拡大により夏季休業中に5回実施 区学力調査全児童通過率 4月 2月 国語 83.3% 78.1% 算数 81.2% 77.3%	感染症予防のため計画していた半分の5回実施となったが、夏季補充教室への参加率は9割を超えた。	○
継続	あだち小学生夏休み学習教室	3, 4年 発展コース 希望者 国語 算数	夏休み5 回	<p>【指導体制】委託</p> <p>【取組のねらい・目的】 上位の児童の学力を伸ばす。</p> <p>【使用教材】区が作成した共通教材</p>	夏休み終了後、事後テストの実施	全員が正答率5%上げる。	新型コロナ感染拡大により未実施	来年度は実施予定	なし

扇中学校									
継続	コンテスト	全学年 国語 数学 英語	年間3回 (各教科 年間1 回) 始業前 10分 放課後 20分	【指導体制】担任・各教科担当 【取り組みのねらい・目的】朝と放課後、学習内容の復習・確認を行うとともに漢字・英単語、計算等の基礎学力向上を図る。 【使用教材】漢字、英単語、計算等のプリント学習	各教科年間1回、 コンテストを実施	12月の学校生活についてのアンケート「コンテスト」についての評価が85%を超える。毎回のコンテストで、80%以上の生徒が正答率80%を超える。	アンケート肯定的評価 7年 91.3% 8年 89.5% 9年 88.0% コンテスト結果 国語 7年 86.0% 8年 85.5% 9年 85.7% 数学 7年 63.2% 8年 76.1% 9年 66.0% 英語 7年 73.2% 8年 91.2% 9年 67.3%	学校評価生徒アンケートにおいて、コンテストが学力定着に役立っていると回答した割合は、昨年度を3.6%上回った。  問題の難易度が高かった。問題や達成目標を再検討する。	○
継続・改善	放課後補習教室	全生徒 国語・数学・英語など	週4回 放課後20分 学年で教科指定 前期4回、 後期4回は全学年による数学の教え合い	【指導体制】教科担任+学年教員 【取り組み内容、ねらい・目的】つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別、1対2、少人数指導。進捗は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。 つまずきの多い生徒は教科教員による取り出し指導を行う。定期考査前はテスト対策を行う。 【使用教材】問題集・プリント教材・タブレット(eライブラリアドバンスなど)	定着度確認テスト(次年度4月に実施される学年のもの) 7,8年で2月に実施予定	12月の学校生活についてのアンケート「補充教室」についての評価が65%を超える。2月に実施する定着度確認テストで目標値を通過する割合が、65%を超える。	アンケート回答結果 7年 84.2% 8年 73.5% 9年 70.0% 平均 76.1% 目標値を超えた。 定着度確認テスト目標値通過率 国語 63.6% 数学 71.1% 英語 65.0% 全体 66.6%	新型コロナウイルス感染対応のため、1対2での指導や、教え合い活動は実施しなかった。  全教科の平均は達成目標を超えた。来年度は、全教科が達成目標を超えるよう、補充教室を充実させる。	○
継続・改善	サマースクール(数学)	全学年 数学 定期考査で正答率50%未満及び同程度の定着度の生徒各学年15~20名程度	夏季休業 日中7日間 各日50分	【指導体制】 7年は数学科3名+教員5名 8,9年は数学科3名 【取り組み内容、ねらい・目的】7月までの内容でつまずきを解消する。教科担任の少人数指導のもと、定期テストで解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 7年生は小学校のつまずき解消に向けた補充問題も扱う。 【使用教材】プリント教材	7年生は最終日に確認テストの実施 8,9年生は夏休み明けに学習コンテストを実施	7年は確認テストで正答率が10点上昇する。 8,9年は学習コンテストにおいて、対象生徒の80%が目標正答率を超える。	7年確認テストでは平均正答率が17%上昇した。  学習コンテスト目標正答率を超えた生徒の割合 8年 60% 9年 40%	対象生徒は、基礎学力の向上は図ることができたが、学習コンテストでは、達成目標を超えることができなかった。サマースクールを充実させるとともに、学習コンテストの見直しを行う。	○

継続・改善	サマースクール (英語)	全学年英語定期考査で正答率50%未満の生徒及び同程度の定着度各学年15～20名程度	夏季休業 日中7日間 各日50分	【指導体制】英語科教員 【取り組み内容、ねらい・目的】 7月までの内容でつまづきを解消する。教科担任指導のもと、定期テストで解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 【使用教材】プリント教材	定着度確認テストを実施	定着度確認テストで、正答率60%を超える	対象者正答率 7年生 36.0% 8年生 43.7%	今年度は、国語も実施した。7,8年生は基礎学力の定着、9年生は読解力育成と作文作成を目的とした。達成目標の設定が適切ではなかった。	△
継続	家庭学習の習慣化	全生徒	通年	【取り組み内容、ねらい・目的】 家庭学習ノートを毎日提出させることで、学習習慣の定着化を図る。家庭学習課題を学年体制で確認する。提出できない生徒に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校・部活参加とさせる。	家庭学習ノートの点検	7月中までに全学年提出率を90%以上にする。その後も継続して提出率を調査する。	7月末の提出率は全学年90%を超えた。以降も提出率を維持している。	主に、基礎基本の確認や、授業の振り返りを行っている。 7年生はeライブラリアドバンスによる家庭学習を実施している。	◎
継続	授業改善	全教員 全教科	通年	【指導体制】管理職・各教科担当 【取り組みのねらい・目的】 前時の内容の振り返りや既習事項を頻繁に盛り込むことを意識的に行う。授業のねらいを明確にし、発問や授業形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びの授業の実践を意識的に行い、プログラミング的思考力を育てる。 eライブラリアドバンスなどを活用し、学習の定着状況を把握する。また、ICT機器を活用し、調べ学習を行い、情報活用能力を育成する。	定着度確認テスト(=次年度4月に実施される学年のもの) 年間3回の授業観察・自己申告面接 生徒による授業評価(12月)	2月に実施する定着度確認テストで対象者が目標値を通過する割合が、全平均で65%を超える。 12月実施の生徒による授業評価で肯定的な回答の割合が70%を超える。授業などでタブレットを活用できていない割合が85%を超える。	定着度確認テスト目標値 通過率 国語 63.6% 数学 71.1% 英語 65.0% 全体 66.6% 授業評価肯定的な回答の割合 7年 83.2% 8年 84.0% 9年 84.6% 平均 83.9% タブレットが活用できている割合 7年 98.2% 8年 89.7% 9年 94.0% 平均 94.0%	全教科の平均は達成目標を超えた。引き続き、授業改善を行っていく。  12月授業評価の肯定的な回答の割合は、各学年とも7月に調査した結果を上回った。特に9年生は7%上回った。	◎

重点的な取組事項－2		小中一貫教育の充実・発展			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
特色ある教育活動を確実に実践し、保護者・地域から信頼され、児童・生徒が誇りに思える学園を目指す。		開かれた学校づくり協議会及び保護者の肯定的な評価を85%以上にする。	保護者対象に行った学校評価アンケートの肯定的な評価は、87%であった。開かれた学校づくり協議会の評価は、未実施。	感染症防止対策により、東西校舎別々に運動会や学園祭を行った。保護者・地域の理解のもと、学校運営を推進できた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中一貫教育の取組を継承・発展させる。小中一貫教育の視点を明確にし、到達目標を共有し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の項目で、80%以上の肯定的な評価を得る。</li> <li>児童・生徒の意識調査で、90%以上の肯定的な評価を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校と中学校の教員が共同で授業研究を行う。</li> <li>異学年が交流し、行事や学び合い学習を実施する。</li> <li>主幹・主任が中心となり学校運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の79%が「9年間を一貫した教育がなされている」と評価した。教職員は99%(+30ポイント)児童は89.8%、生徒は85.8%</li> <li>感染症防止対策により、児童・生徒の交流を制限したため、異学年交流はできなかった。</li> </ul>	タブレットが1人1台使用できるようになったため、全校体制でICT活用能力の向上を計画的に推進できた。	○

重点的な取組事項－3		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童・生徒が、自ら考え、学習や生活に意欲をもって主体的に取り組めるようにする。		開かれた学校づくり協議会及び保護者の肯定的な評価を80%以上にする。	授業や行事で、ICTを活用した新しい学習が推進できた。児童・生徒が主体的に企画・運営する教育活動が実施できた。開かれた学校づくり協議会の評価は、実施しなかった。	ICT機器活用能力が、教職員及び児童・生徒共に飛躍的に向上した。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自ら考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初と年度末に行う、学習・生活調査で評価を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が授業や特別活動などで、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、児童・生徒の学びを深める。</li> <li>ICTを活用した教育活動を推進し、情報機器活用能力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒は、感染症防止に努めながら、主体的・対話的な学習に意欲的に取り組んだ。</li> <li>グループ学習ができたという回答は、5年～9年で80%を超えた。</li> <li>タブレットの活用ができていたと回答した児童・生徒は、小93.8 中94.0</li> </ul>	感染防止対策を行いながら、対話的な学習の機会を増やした。ICTの活用は有効であった。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上

<成果>

- ①足立スタンダード形式を活用した授業の展開ができた。また、授業内に対話や発表の機会を意図的設け、授業を展開することができた。コミュニケーション能力や表現力が向上した。
- ②全校体制での補充教室や長期休業中（春季）の補習を実施し、習熟度の応じた個別指導ができた。
- ③ICTを活用した授業が全校体制で展開できた。タブレット端末を活用できたという回答は、小学生 93.8%、中学生 94%であり、昨年度よりも、10ポイント向上している。
- ④大型投影機やタブレット端末を全教員が活用し、計画的かつ系統的な授業を展開できた。

<課題>

- ①家庭学習をさらに充実させるために、タブレットによるAIドリルの活用が期待できる。
- ②感染症予防対策のため、対話や発声などに制限がある。ICTを活用したコミュニケーションの向上が課題である。

#### 重点的な取組事項－2 小中一貫教育の確立

○小中一貫教育の取組を継承・発展させるための方策

- ①感染症予防対策を徹底し、形式や人数を工夫するなどして、異学年が交流できる行事や学び合い学習を実施する。
- ②児童・生徒の発達段階に応じた達成基準を設定し、その達成に向けた企画・立案を全校体制で実施する。

#### 重点的な取組事項－3 キャリア教育の推進

○自ら考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成のための方策

- ①全教員が授業で、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、児童・生徒の学びを深める。
- ②ICT機器を活用した授業を全学年で実施し、情報機器活用能力を向上させる。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

- ①小中一貫教育校として16年目を迎え、義務教育9年間を見通した教育の充実と学習環境の整備に努めてまいりました。一昨年度より行っている、保護者・地域による学校評価アンケート結果によると、約94%（昨年度よりも9ポイントアップ）の肯定的な評価をいただきました。保護者・地域の方からいただいた評価や具体的な要望を真摯に受け止め、課題解決に向けて取り組んでいきます。
- ②児童・生徒のアンケート結果によると、「①学校が好き」小89.8%（昨年度79.8%）中85.8（昨年度84%）、「②自分のことが好き」小73.4%（昨年度68.1%）中70.2%（昨年度57.8%）「③自分には良いところがある」小78.9%（昨年度75.4%）中80.7%（昨年度67.1%）「④自分や友達を大切にしている」小97.5%（昨年度93.9%）中95.6（昨年度95.4%）「⑤友達やクラスに役立っている」小68.7%（昨年度64.6%）中72.1（昨年度54.3%）でした。昨年度やや低い値だった中学校は、54.3%から17.8ポイントアップしました。さらに自己有用感や自己肯定感を、向上させていくことが課題です。
- ③学校が魅力的で楽しく、安心して生活できる場であるための第一の条件は、「分かる授業」「主体的に学べる授業」と「いじめのない生活環境」だと考えます。教職員一致協力して、児童・生徒、保護者・地域に、満足していただける学園となるよう、全力で取り組んでまいります。今後とも本学園の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

- ①小中一貫教育校として、9年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な能力・態度を身に付けた児童・生徒を育成する学校づくりを目指して、重点目標を、①学力の向上 ②小中一貫教育の確立 ③キャリア教育の3点とし、目標達成に向けて全校体制で取り組んできました。
- ②各教科や領域での ICT 機器等を活用した課題解決型授業を通して、児童・生徒の情報機器活用能力が飛躍的に向上しました。また、授業では、児童・生徒が自ら考え、判断し、発表できる対話的で主体的な学習を目指し、I C T機器を活用するなど工夫・改善をしてきました。学校で学習したことを確かな力にするためには、家庭学習の充実が大切です。今後も取り組んでいきます。
- ③国際コミュニケーション科では、英語学習や国際理解学習を年間計画に基づき行いました。また、明海大学との交流は、5年生と9年生がオンラインで行いました。さらに、31年度から小学校に英語の授業や外国語活動が加わりましたが、それとは別に年間10時間～15時間英語学習を行いました。今後も英語を楽しく学び、円滑なコミュニケーションを図れる児童・生徒を育成します。
- ④例年、延べ100名以上が参加する地域やP T Aのボランティア活動は、新型コロナウイルスの関係で行われませんでした。向日葵やプランターの花苗植えは、延べ3回実施しました。ボランティア活動を通して、地域に貢献する喜びや、協力することの大切さの精神は引き継いでいきます。